

サイレント・マニピュレーションの説明と同意書



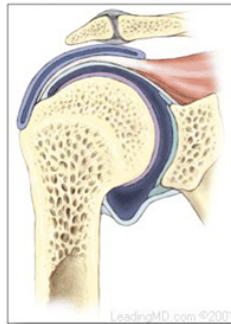
運動痛



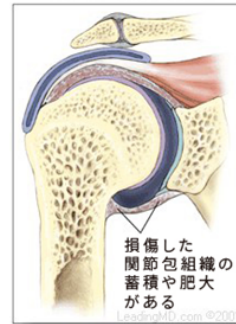
夜間痛



通常の肩関節



五十肩



肩関節拘縮とは何らかの原因(原因がない場合もあります)で肩関節の動きがわるくなり、動かすと痛かったり、夜間痛みのために眠れなくなったりする症状です。医学的には肩関節周囲炎(五十肩)などに起こります。リハビリをしても症状が良くなるまでに2~3年かかることもあり、半数の人は症状が残るとの報告もあります。病態としては肩関節を包む関節包という組織が厚くなり、縮むためで、その肩関節包を内視鏡で切って動くようにする手術があり、私も長くそのような手術をしてきました。しかしながらこの手術をするには入院の上全身麻酔をしなければなりません。そこで当院では外来で超音波エコー下に安全に肩関節周囲の痛みをとる麻酔を行います(もちろん全身麻酔ではありません)。15分ほどベッド上で安静にさせていただくと肩関節周囲から肘にかけて麻酔が効いてきます。人によっては注射した腕全体の位置感覚が一時なくなる方もいますが心配はいりません。痛みが軽減した状態で医師が肩関節を動かして縮んだ関節包を広げ、関節の動きを改善します(サイレント・マニピュレーション、保険適応術式名:非観血的関節授動術)。意識がある状態で行い、その日のうちに帰宅できます。まれに麻酔がよく効いて肩から腕にかけて力が全くはいらない方もいますが数時間のうちに麻酔は切れます。この場合は三角巾で腕を吊って帰っていただく場合もあります。麻酔が切れても痛みが強くなることはなく、当日から夜間よく眠れるようになることがほとんどです。

☆ 適応とされる方

肩関節の動く範囲の制限が強く、夜間痛が強く、運動器リハビリなどで効果が見られない方

適応とされない方

80歳以上の女性、あるいは高度の骨粗鬆症がある方

局所麻酔剤にアレルギーのある方、慢性の呼吸器疾患がある方

留意すべきこと（最も重要）

再度動きが悪くならないように（再癒着と言います）、マニピュレーション施行後も最低1ヶ月ほどはリハビリを継続することが大切です。

副作用と対策

- (1) 感染：糖尿病などの基礎疾患がある場合、非常にまれですがマニピュレーション施行の前に行う上肢伝達麻酔の注射によって菌などが侵入することがあります。
- (2) 脱臼・骨折：非常に稀ですが、動きが硬くなった肩関節を動かすために上腕骨骨折や肩関節脱臼を起こす可能性があります。高齢の女性や骨粗鬆症が高度の方に起こることがほとんどのため、慎重に愛護的にマニピュレーションを行います。
- (3) 局所麻酔剤を使用するため、ふらつきや血圧低下、さらに精神的な緊張も加わり、呼吸苦などの症状が出現することが稀にあります。ほとんどの場合、しばらくベッド上で休んでいただくだけで症状が回復します。

具体的な治療の流れと所要時間（外来滞在時間は1.5～2時間前後）

診察室に入っただき、施行前の肩の動きを評価したあと、ベッドに横になっていただきます。超音波エコーで神経の部位を正確に確認した後、上肢伝達麻酔を行います（15～20分）。その後15～20分ほどベッド上で安静にいただき、麻酔が確実に効いて痛みがなくなったことを医師が確認してから、マニピュレーションを施行します（15～20分ほど）。このままで帰宅されても痛みが強くなることはほとんどないのですが、予防的に関節内への注射や痛み止めを処方する場合があります。この後、外来待合室でしばらくの間（30～1時間ほど）様子を見ていただき、帰宅していただきます。当日入浴も可能です。



同意書

はしもと整形外科クリニック
院長 橋本 卓 殿

私はサイレント・マニピュレーション（保険適応術式名：非観血的関節授動術）
による治療の説明を受け内容を理解し、治療を受けることに同意します。

令和 年 月 日

患者氏名 _____

説明医師 是しもと整形外科クリニック 院長 橋本 卓 _____